

大学と私

グループ12 張 センセン

紹介文

お寿司用の醤油のような濃い雰囲気、カラフルような生活スタイル。大学時代は人生一番大事な時間と言えるだろう。私は大学に入ってからいろいろな人と出会い、昔と全く違う風景を見せてきた。高校で見たこともない世界に入り込んだと感じていた。

いつの間にか、大学に入ってからもう四年に経ちた。初めて蘭州大学にきたその日、いまも覚えている。初めて家を出て、遠いところに行ったので、ちちは蘭州市まで見送った。先輩はバスストップにお迎えにきた。その先輩は優しく、とても親切な人である。その日小雨が降ったので、傘を借りてくれた。学校を案内してくれたあと、ラーメンを奢ってくれた。そのとき初めて牛肉ラーメンを食べた。そして、好きになった。それは蘭州大学で初めての思い出である。

そうした始まった大学生活。大学の生活は自由である。授業も少ない。一年生のとき、私にとってとても新鮮であった。放課後図書館に行って、本を読んだり、勉強したりした。時々買い物したり、インターネットしたりした。そして、新しい友達も作った。寮には4人がいた。みんなは各地からきて、一緒に3年の時間を過ごした。学校のなかには市場があって、おいしくて安い店がたくさんある。いつも4人でそこで一緒にご飯を食べた。みんなお互いに誕生日を祝ったり、一緒にカラオケに行ったりした。実家を離れても、寂しくなかった。いま考えてみると、友達も、おいしい店も、小さいがにぎやかな街も、みんな懐かしい思い出である。

私の出身地は山東省である。実家から蘭州まで汽車でおよそ18時間かかる。中国は人口が多くて、汽車がいつも人がいっぱいであつたいへん込む。特に年末のとき、みんなは実家に帰るからチケットを買うだけでたいへんである。チケットを買っても、席がなく立つしかない場合もよくある。一年生の時に、冬休みが終わって汽車で学校に戻るつもりであったが。その日人が多すぎて、汽車に乗られなかった。結局バスで行った。大変疲れてしまった。私は汽車が本当に苦手で、山東大学で日本語を勉強するチャンスがあると聞いて、迷わずに申し込みした。家から山東大学までバスでただ3時間かかるからだ。こうして、二年生のとき、私は交換生として山東大学に行った。山東大学で同じ日本語専門学部のグラスで学生たちと一緒に日本語を勉強した。担当の先生が親切な人である。彼は日本に留学したことがあって、いつも留学したときの面白いことを私たちに教えてくれた。~~やはず~~その時から私はいつか日本に留学したらいいなあと思った。故郷に近いので、休みのとき私はいつも家に帰った。蘭州大学の榆中キャンパスは市内に遠いので、買い物するのはちょっと不便である。山東大学のキャンパスは市内に近く、周りには大きなスーパーがいくつかある。週末には割引があって、いつも友達と一緒に買い物した。済南のラーメンも有名である。私はラーメンが大好きで、よく近くのラーメン屋さんのところへラーメンを食べに行つた。そうした楽しく充実した1年を過ごした。

三年生の時、私は蘭州大学に戻つた。学校に着いたその日、懐かしい牛肉ラーメンを食べた。ちょっと残念だったが、その時は秋であつて雪がまだ降らなかつた。もし冬だったら雪が降つて、暖かい店の中で雪を見ながらラーメンを食べるのが人生最高の楽しみと言える。

友達が以前のような仲良くしてくれて、勉強も順調に進めていた。

四年生になるいま。交換留学生として秋田大学にきた。全く違う国で世界各地からの留学生たちと一緒に勉強して生活している。日本に来てから、一人暮らしになってちょっと寂しかった。蘭州大学で同じ寮に住んでいた紹也さんもいるので、安心した。いまもう新しい生活を慣れていた。中国の先生と違って、ここの先生は学生にもっと自由させる。そして食堂もおいしい。私は食堂のカレーが大好きで、食堂で一番よく話すことばは「カツカレーエスお願いします」。以前吉野家やすき家でカレーを食べたこともあるが、やはり食堂のカレーが一番おいしい。ちょっと気になるのは秋田の天気である。10月秋田にきたばかりとき、雨の降る日が多かった。12月になると、ほとんど毎日雪が降った。雪が地面に積もって自転車を利用することもできない。毎日歩いて学校に行くしかない。ちょっと不便である。この間横手市のかまくら館を見学に行った。秋田市は雪が多いと思うが、まさか横手市は秋田市よりも雪が多いのは思わなかった。本当に雪国である。春休みのとき、友達と一緒に東京と大阪と京都に旅行に行った。一月一日に清水寺に行って、初詣の人がいっぱいだととてもにぎやかであった。おもしろかった。

散歩について

第一番目の散歩は駅に行った。駅の近くのラーメン屋さんでラーメンを食べた。値段はちょっと高かったが、おいしかった。辛いと書いたがあまり辛くなかったと思う。ちょっとしょっぱかった。そういえば、秋田に来てからの第一食もラーメンであった。チューターと一緒に食べた。やはりラーメンと縁を結んだからだろう。次回は回転寿司を食べに行った。初めてまぐろ寿司を食べた。私にとってなまで食べるのは考えられないことである。私はあまり食べられない。微妙な味がする。そして、マクドナルドに行った。最後に医学部キャンパスに行った。時間が足りなかったたので、少しだけそこにいた。静かな場所であった。

話し合いの結果

小山さんは大学に入ると自由な時間が多くなると言った。自由すぎて、逆に何もできない。結局何のために勉強しているかも分からなくなる。松本さんの話によると、1年生あるいは2年生のとき、多くの学生はまだ未成年なのに、お酒を飲んだり、遊んだりする。ダへさんは先輩がちょっと怖いと言った。

中国の大学生は普通食堂でご飯を食べる。大学のなかには市場があるので、そこでご飯を食べる人も多い。昼ごはんの間の休みの時間が長いので、お弁当を持つ人はほとんどいない。そして、みんな寮に住んでいるので、安全のために寮でご飯を作るのが禁止でれる。日本では大学に入ってから普通アパートに住んで、一人暮らしをするようになる。毎日一人で料理を作ったり、食べたりするようになる。昼ごはんの間の休みの時間が短いので、みんな食堂であるいはお弁当を持って食べるそうである。日本の大学生のなかには、アルバイトをする人や部活活動に参加する人が多いが、中国ではあまりいない。

大学と私

今もう4年生である。本当にあつという間であった。この間、蘭州大学で同じ寮に住んだ

友達から電話をもらった。もうそろそろ中国の新年になって学校はもう休みになった。彼女はもう実家に戻って仕事を探しているそうである。私もそろそろ卒業して大学を離れる。苦しいときもある。楽しいときもある。大学で学ぶのは知識だけでなく、未来の人生に欠けてはいけない経験や責任など。これこそは大学での真の意味だと信じ込んでいる。だから、山東大学と秋田大学に行って違う学校の雰囲気を体験したかったのである。大学は社会人になるための修羅場とされているが、多くの大学生にとって、遊園地である。実は4年の時間は人生の中で本当に短い。もっと大切にして、頑張って勉強しなければならない。あと半年であるが、大学生活はまだ続けている。これからも頑張って大学の生活を楽しんでいきたい。いろんなことを体験して、日本でのいい思い出をもっと作りたいと思う。